

分詞構文の指導方法についての一提案

— 学習者向け読み物を活かす指導 —

吉川 勝正

要 旨

入学して来る学生の学力の低下傾向に対して、各大学で様々な対策が採られている。本学に入学して来る学生の英語力も、残念ながら、低下傾向にある。近年の入学生は、本来高校時代に習得しておくべき重要な文法事項を習得できていない。そのために、筆者は分詞構文、仮定法、関係詞などの重要な項目については、使用テキストとは別途にプリントを作成して、試行錯誤を経ながら、指導を継続している。本稿では、分詞構文の指導に関し、英語学習者や児童向けの読本から、分詞構文の用例を用いることの意義と有用性を説明し、使用頻度の高い例(付帯状況、結果、原因・理由)については、英文を暗記させることを提案したい。

1. はじめに

大学生の学力低下が話題になるようになって久しい。近年ますます多くの大学では、リメディアルという名称を用いても、用いてなくとも、こうした学力の低下に配慮したカリキュラムや授業内容に変えている。筆者が所属している学科では、リメディアルに相当していたのが「基礎英語」という科目であった。現在はこの科目は既に廃止されている。それは、この科目だけで、本来高校卒業までに学習しておくべき事項の復習を徹底するのは無理であることが分かり、英語の全ての科目に於いて、高校卒業時までに習得しておくべきだった事項を、もう一度学習するのが適切と判断したからである。

英語の科目に限定するならば、以前の学生に比べて文法力の低下が顕著であるように感じている。それで、筆者は普通の授業の中で、特に高校時代に習得すべき事項でそうっていない大切な文法事項については、別にプリントを用意して授業を行っている。本稿では、文法項目の中で、分詞構文に焦点を当ててみた。「分詞構文の実際の使われ方」を英語学習者向けの英語の読み物の中で調べ、その特徴からより効果的な指導方法を探るのがねらいである。

2. なぜ学習者用の読み物を対象としたか

分詞構文の実際の使用例は、英語の小説、随筆、新聞など広くから採集できるし、従来の使用例の研究はこうしたところで行われて来た。しかし、本学の学生の英語力はでは、そうした成人した母語話者に向けて書いてある書物、雑誌、新聞をすらすらと読みこなすことはできない。まだまだ、英語学習の途上で、母語話者向けでも子ども用か、英語学習者向けの比較的簡単な英文で書かれたものでないと、読めない。よって、授業で指導する時も、英語の成人母語話者向けの書籍等から例を出すのは、学生にとっては難しくて手に負えない。そこで、学生の英語力に合ったものから用例を採り、示すのが分かり易いと考えた。

こうした考えから、成人母語話者向けに書かれた小説、随筆、新聞などではなく、英語学習者向けや母語話者の児童向けに書かれた比較的簡単な物語の中から、分詞構文の用例を求めることにしたのである。

本稿では、物語に限定して分詞構文の使用例を調べてみることにした。理由であるが、学習者向けのものとしては、最も多く出版されているからである。他の新聞や随筆などで、学習者や子ども向けに易しい英語で書いてあるのは極めて少ないのが現状だからである。

3. 学習者向け物語での使用例

分詞構文の使われ方を調べたのは、1. *AMERICAN FORK TALES*, 2. *Anne of Green Gables*, 3. *Little Women* の三冊である。以下、分詞構文の使われ方を表1. 表2. 表3. で示し、三冊を合わせたものを表4. で示した。縦が文での位置、横が意味による分類である。意味による分類で一つ注意を喚起しておきたい。結果を表す用法は付帯状況に入れる立場を取る研究者が大半だが、筆者は付帯状況から独立して一つの意味として考える方が良いとの立場で、ここでは、独立させている。また、この三冊の物語のそれぞれの総語彙数が異なっているので、これが分詞構文の使用数の差の一番大きな要因であると思われることも注意されたい。また、分詞構文の意味は曖昧なのが基本的な特徴であり、例えば、付帯状況と理由・原因の両方に解釈できる場合などがよくある。よって以下はあくまで筆者による分類であり、読み手によっては分類の違いが多少出てくる可能性が十分にあり得ることを初めにお断りしておきたい。

分詞構文の指導方法についての一提案

表 1 AMERICAN FORK TALES

	付帯状況	結果	理由・原因	時	条件	逆説(譲歩)
文頭	4	0	2	0	0	0
文中	5	3	1	0	0	0
文末	20	10	0	0	0	0

表 2 Anne of Green Gables

	付帯状況	結果	理由・原因	時	条件	逆説(譲歩)
文頭	0	0	0	0	0	0
文中	1	0	0	0	0	0
文末	11	0	0	0	0	0

表 3 Little Women

	付帯状況	結果	理由・原因	時	条件	逆説(譲歩)
文頭	1	0	5	0	0	0
文中	19	5	0	0	0	0
文末	36	3	0	0	0	0

表 4 合 計

	付帯状況	結果	理由・原因	時	条件	逆説(譲歩)
文頭	5	0	7	0	0	0
文中	25	8	1	0	0	0
文末	67	13	0	0	0	0

上の4つの表を見れば、位置では文末が一番多く、意味では付帯状況が圧倒的に多いことが分かる。また、時、条件、逆説(譲歩)の使用例は全くなかった。具体的に割合で見ておきたい。位置では、全使用例123箇所の中で、文頭が12箇所約9.8%、文中が31箇所25.2%、文末が80箇所65.0%であった。意味では、付帯状況が97箇所使用されて78.9%、結果が16箇所13.0%、理由が10箇所8.1%であった。

今回調べた3冊の中には、時、条件、逆説(譲歩)の用例は見られなかった。この原因は幾つか考えられる。先ず(1)僅か3冊で合計の総語彙数やページ数が少ないために、たまたまそうした用例に出くわさなかった、ことが挙げられよう。次に(2)元々、一般向けの英語の本や雑誌や新聞などでも、現れる頻度がかなり低く、学習者向けでも同様に低く、現れなかった。(3)学習者向けや母語話者でも児童向けの物語では、時、条件、逆説(譲歩)は分詞構文を使って書かなくとも、適切な接続詞を使って書くのが、読者にとって理解の負担が少ないのかもしれない。他方、付帯状況、結果、理由・原因の用法は分詞構文の本質的な用法で、他の接続詞を使って書いた場合とは全く同じ意味合いにはならず、分詞構文でしか表し得ない意味合いがあるのかもしれない。分詞構文の意味の曖昧性は、ある特定の接続詞で書き換えた場合は、それが薄れてしまうのであろう。

3. 用例の紹介

以下、各物語の中での分詞構文の用例を紹介していく。

3-1. AMERICAN FORK TALESより

3-1-1. 付帯状況の例

When the great bird, slowly flapping its wings, settled upon the shore near the fruit, Pea-pea shouted to his men. p.17

Carrying the head of Pea-pea the Eight-eyed, Maui climbed into the bird and began to work the cords. p.18

3-1-2. 結果の例

Early the next morning he set out, walking west though the deep forest. p.22

3-1-3. 理由・原因の例

Unable to walk any farther, Scareface slumped to the ground. (unable
の前に Being が略されている) p.24

3-2. *Anne of Green Gables*より

3-2-1. 付帯状況の例

“How is your mother?” Anne asked, trying to sound grown-up. p.48

Anne, wearing her second-best dress, opened the door. p.48

3-3. *Little Women*より

3-3-1. 付帯状況の例

“Christmas won’t be Christmas without any presents,” said Jo, lying
on the floor.

p.3

For a few seconds, nether of them spoke, then Jo, trying to be proper,
said “I think I’ve had the pleasure of seeing you before. You live near us,
don’t you.” p.20

Jo rushed out of the room, her anger still burning inside of her. p.50

Within a few minutes there was a bright fire burning, the table was set,
with the food laid out. p.13

3-3-2. 結果の例

Meg and Jo went back to work, doing what they could to help their
family by getting some money. p.25

3-3-3. 原因・理由の例

As spring arrived the party season started and Meg, being at the party
age, was invited to spend some time at Annie Moffat’s. p.59

Amy moved in her sleep and Jo, wanting to put right her problem
straight away, went over to her with a look of deep love on her face.

p.59

Realizing that the usually happy Meg had been angered by Laurie's game, Mrs. March promised that she would not say a word. p.146

Not knowing what to say in reply she changed the subject. p.97

4. 授業でどう活かすか

近年、筆者の担当する英語の授業で時折プリントを用意して特定の文法項目の説明を行っている。こうした文法項目には、仮定法、関係詞、分詞構文がある。

分詞構文に関しては、まずは類似の日本語の二つの文を繋ぐことから入っている。そして、学習参考書に見られるような基本的で分かりやすい例文を導入している。ただ、このような例文は実際の本や雑誌や新聞やネットに使われていた英文ではなく、英語学習者のために書かれたものである。分かり易い反面、実際に分詞構文とは、語彙のレベルや文章の長さなどで、どうしても多少の隔たりが存在する。

基本的な分詞構文をある程度理解しても、直ぐに実際に分詞構文に移行するにはやや問題があった。そうした問題点を解決するためには、今回上に紹介したようなレベルの分詞構文の例であれば、あまりレベルの差を感じることなく、学生が取り組めるものである。また、実際の英文であれば、学生の動機付けの点でも利点がある。

ただ、注意しなくてはいけない点もある。それは、実際の英文は、文脈の中で使われており、単独では使われていないので、実際に分詞構文を理解する場合には、話題や文脈や固有名詞についての背景知識の説明をしないと、分かり難い点である。この辺りには十二分の配慮が必要となる。

こうした点を考慮すると、分詞構文を単独で示すよりも、分詞構文を含んだ前後1ページくらいをプリントして読ませてみるのが賢明であると思われる。しかし、これを例えば、10の分詞構文を含んだ英文の前後1ページをプリントして用意し、授業中で行うとなると、かなりの時間を要してしまう。そこで、事前に予習するように課題としてプリントを渡しておいて、次の授業の中でやるのが効率的である。

分詞構文は、generally speaking, turning to the left, weather permitting などのような慣用的な言い方以外は、日常会話ではあまり使われることはないし、上級者ではない限りは、分詞構文を使って英語の文章を書く必要もまずない。このような考えから、従来分詞構文の例文を暗記させることは、他の重要な構文や文法事項の場合とは異なり、行われることは滅多になかった。しかし、書く必要がなくても、英文を暗記していることは英文の理解をかなり楽に

分詞構文の指導方法についての一提案

なるのは明らかである。教師が長々と丁寧な解説や説明をするだけで、分詞構文の用例に触れるのが少ないままでは、定着が期待できない。従来、分詞構文が英語学習者にとって困難と受け取られて来た理由の一つは、指導方法にも一因があったと筆者はみる。定着を図るには、使用頻度の高い、付帯状況、結果、理由・原因の例文を暗記させるのが効果的と考える。この暗記法については数年実施してみて、また報告したい。

5. おわりに

本稿に於いては、本学の学生に対する分詞構文の指導に関して、学習者向けや母語話者児童向けの読み物から例を採用することの意義を初めに示し、3冊の本での実際の使われ方を調べ、表にしてみた。すると、付帯状況、結果、理由・原因の用例が多いことが判明した。そして、この実際の例文を課題として事前に与えておいて、授業では解説にとどまらずに、例文を暗記させることの必要性を提案した。まだ、仮説の段階であり、今後数年実践しながら、分詞構文のより良い指導方法を模索して行きたい。

分析図書

1. Louisa May Alcott (adapted by Ron Davidson) (2005) *Little Women* アイビーシーパブリッシング株式会社
2. Lucy Maud Montgomery (adapted by Deborah Felder) (1994) *Ann of Green Gable* Random House. New York
3. Retold by Ralph F. McCarthy (1989) *AMERICAN FOLK TALES* 講談社インターナショナル株式会社

参考文献

- 吉川勝正 (2008) 「分詞構文は難しくない」, 『サテライト講義 21 講』
熊本学園大学経済学部編, pp. 169-177 ミネルヴァ書房